

海況情報【内湾湾口観測結果】

愛知県水産試験場漁業生産研究所

令和4年11月15日

【観測結果（調査日：11月7、8、9日）】

11月7日に伊勢湾北部、8日に伊勢湾南部と三河湾、9日に渥美外海の観測を実施しました。海面水温は19.5℃から23.6℃となっており、伊勢湾と三河湾奥で低く、湾口から渥美外海に向けて水温が高くなっています。黒潮の本流が遠州灘に接近している影響により、渥美外海が高温傾向になっています。

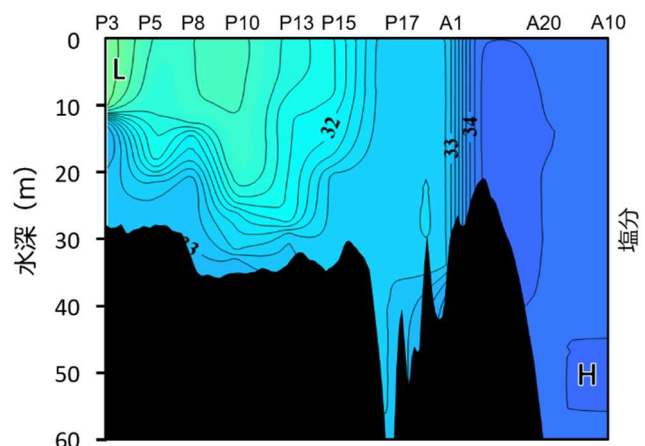
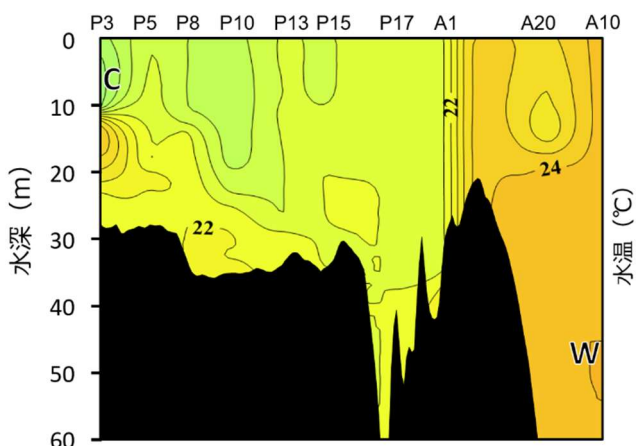
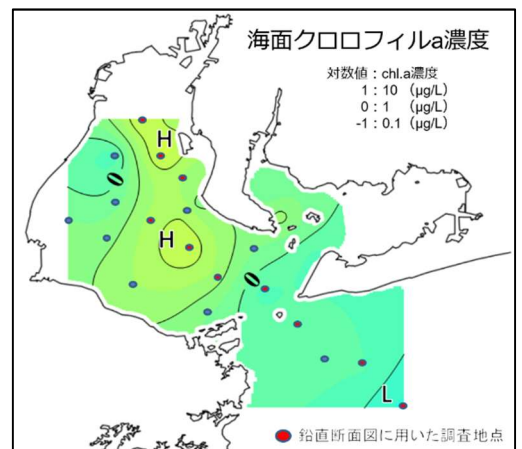
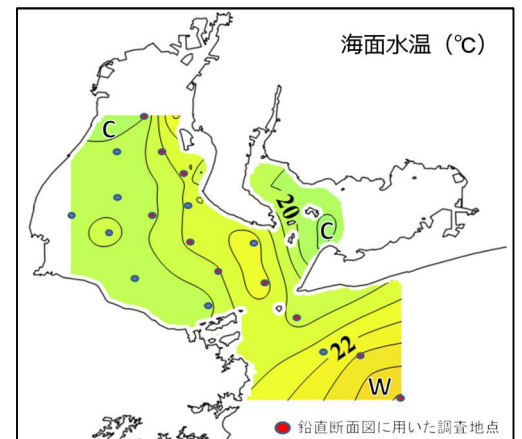
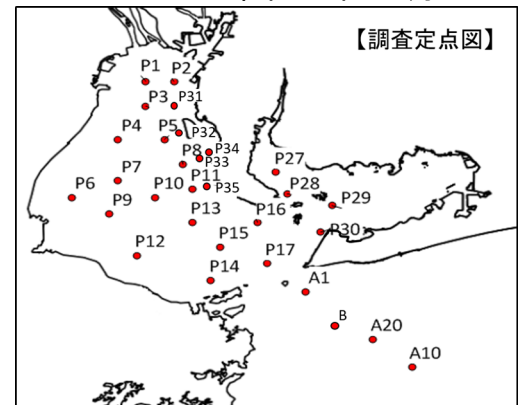
海面のクロロフィルa濃度は、伊勢湾湾奥の愛知県側から湾中央で高く、伊勢湾湾奥の三重県側と渥美外海で低くなっています。

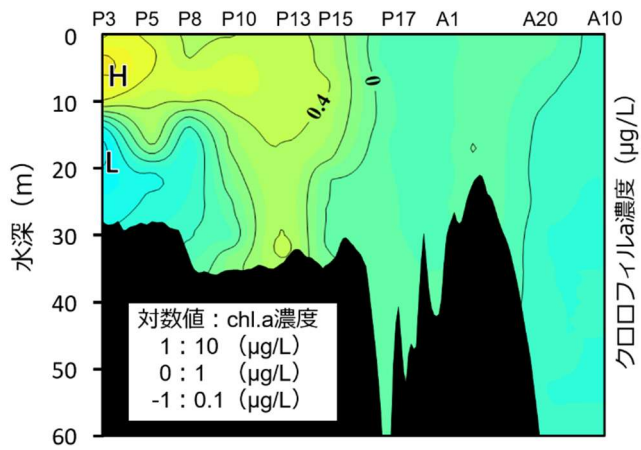
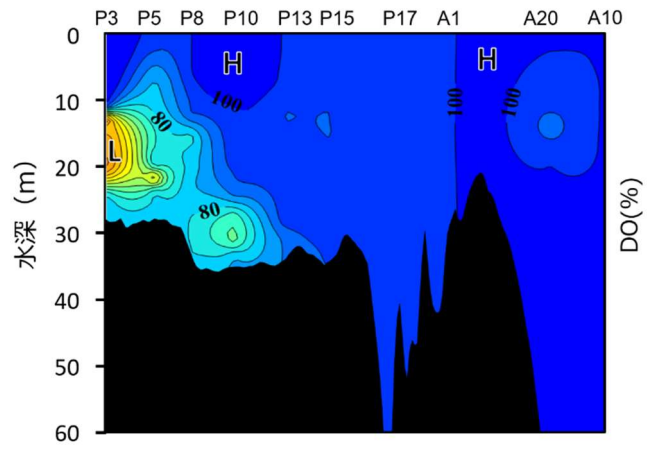
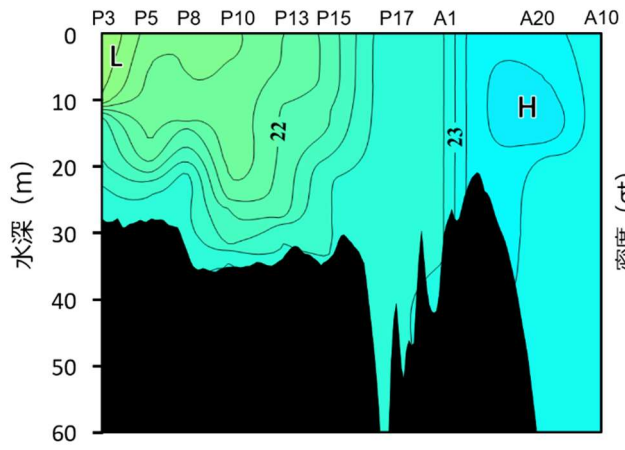
【鉛直分布（調査点：P3～A10）】

水温の鉛直分布をみると、河川水の影響が少ない伊勢湾湾中央から湾口（P13～A1）は、気温の低下に伴って海面が冷やされて鉛直混合が進み、表層と底層の密度差が小さくなっています。外海は遠州灘に接近する黒潮本流の影響で高温・高塩分の水が分布しています。このため、湾口（A1）に内湾系水と外海の黒潮系水の密度差による前線（熱塩フロント）が形成されています。

クロロフィルa濃度は湾奥（P3）から湾中央（P13）における表層から水深10mを中心に極大層がみられます。また、湾中央（P10～P13）ではクロロフィルa濃度が表層から底層までやや高くなっています。

湾奥部（P3）の水深20m付近には、小規模な貧酸素水塊（溶存酸素飽和度30%以下）が浮上しています。





※図中の値は常用対数値です